

6年 特別活動

学級活動（2）

番組名 「いじめをノックアウト」

放送回 2013 年度版第2回「あだ名は禁止するべきですか」

実践者 川崎市立下布田小学校 教諭 片岡 義順

小・中学生が、いじめについて話し合う姿を伝えています。出演している高橋みなみさんが、子どもたちに丁寧に語っています。

番組の使い方

活用のねらい

この回では、あだ名についていろいろな視点で考えていく。あだ名で呼び合うことの根底には互いを大切にすることがあることを視聴から学ぶことができる。そうした共通認識を土台として考えを深め、学級内のよりよい関係づくりに活かす。

具体的な手立て

- ・「あだ名」について、クラスでの日常を振り返ったあとで**番組視聴**する。
- ・児童の意見を黒板上で可視化して、参加意識を高め、授業への主体的なかかわりを促す。
- ・本時の最後に「いじめをノックアウト」の**番組サイト『みなみの考え』**を視聴。話し合いでまとめた考えと比較する。

授業の概要（1時間扱い）

単元の目標

互いに信頼し、学び合って友情を深め、仲よく協力し合う心に目をむけ、学級でより良い関係を築こうとする態度を育むことができる。

<視聴前>

あだ名が日常の中でどのように使われているかをクラスで確認する。

番組視聴（10分）

- ・見やすい位置へ自由に移動して視聴
- ・メモはとらない ・教師の位置

<感想交流> 番組を見て感じたこと思ったことをワークシートに書き、あだ名について自分の考えを表明する。

<話し合い活動>

- ・それぞれの立場で考えを発表しあう。
- ・生活の中で友達をあだ名を呼ぶ時に心がけることを出し合う。

番組サイト「みなみの考え」を視聴し話し合い出た考えと比較する。

今日の授業の振り返りをする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

自分だったらという視点で考えを深める

何度も言われているあだ名は嫌だという健太くんの気持ちに共感できる。

あだ名の言い方が少しひどいから、（クラスの友達）が使っているあだ名は違うと思う。

自分の考えを表明して主体的・協働的に学ぶ

黒板に
意見を
表明

それぞれの
立場の根拠
を意見交流

あだ名を使う時
に心がけること
を全員で考える

指導を終えて

あだ名は友達に愛着をもって呼ぶものという経験に加え、あだ名で呼ぶ時には相手の気持ちを考えることが大切であることを確認した。児童の意見を表明しながら活発な意見交流ができた。授業後にはあだ名をつけてもらおうとする児童も複数現われた。振り返りでは、「**学習したことを今後の学級生活で活かしたい**」、「**授業が楽しかった**」93%、「**いろいろな方向から考えられた**」89%という回答であった。学級生活をよりよくしていこうという声が多く聞かれた。

